



発行所  
カトリック長崎大司教区  
本部事務局  
〒852-8113  
長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
TEL 095(846)4246  
FAX 095(842)4460

## 信徒発見一五〇周年に向けて

長崎大司教

高見 三明

### 1. ペト口岐部と一八七殉教者の 列福式と記念日

昨年11月24日の列福式は、混迷した日本社会の多くの人々に特別な感動を与えました。殉教者たちが、いのちをかけても譲らなかつた、この世ならぬ永遠のいのちの輝きと重みが現実味を帯びて人々の心に感じられたからではないでしょうか。

それは、暗く垂れ込めた雨雲の間から地上の式場に差し込んだ陽光の光に象徴されていたように思います。7月1日に最初の「福者ペト口岐

部司祭と一八七殉教者記念日」を迎えます。殉教者たちの執り成しによって列福式が日本の教会と社会に少なからぬ信仰の光をもたらすようにはからつてくださった神様に感謝し、神様の恵みにささえられながらこれからも彼らの生き方に倣って社会の中で自分の信仰を力強く証ししていく決意を新たにしたいと思います。

なお、11月24日の列福式の一周年を記念して、それ以後の四つの週間の土日毎に長崎巡礼にまつわるさまざまな企画が長崎巡礼センターが中心となって考案されつつあります。

もしこれが実現し成功すれば、今後毎年行われることが期待されます。

### 2. 「司祭年」

昨年6月から今年6月までを「パウロ年」として過ごしました。実際には列福式のため前半は手付かずの状況で、後半に集中せざるを得ませんでした。個人、家庭、共同体、小教区、地区などのレベルでさまざまな取り組みが行われたよう、大変喜ばしく思っています。

少しでも信仰の涵養になり、今後の信仰生活と宣教活動に生かすことができるようにと祈っています。

ところで、教皇様は、去る3月16日、教皇庁聖職者省総会において、聖ヴィアンネーの没後150年(8月4日)を記念して6月19日より来年の6月19日までを「司祭年」とすると発表されました。テーマは「キリストと司祭職への忠実」です。

確かに司教と司祭は教会の要ですが、そのことは真の頭・牧者キリストの名によつてはじめて可能なのです(エフェソ4・16・コロサイ2・19・ヨハネ10・11、14-16・使徒言行録20・28参照)。司教と司祭一人ひとりが、自分がどのような召命を受けた者であるかを再認識し、また

自分の生き方と働き方について神様と人々の前で真摯に振り返り、さらに上を目指して再出発することができよう共に祈りたいと思います。

### 3. 信徒発見一五〇周年に向けて

教皇庁は、鎖国日本の開放が遠くないと判断してのことと思いますが、1862年に日本26福者を列聖しました。

それから3年後の1865年3月17日、神のみ摂理によつて、密かに信仰を守り伝えていた浦上の信徒がプチジャン神父と歴史的な出会いをしました。

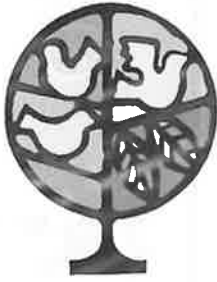
しかしその2年後に浦上四番崩れ、本場四番崩れ、五島崩れなど、長崎県全般で潜伏していたキリシタンに対する激しい迫害が起こりました。

しかしまた浦上四番崩れが始まった同じ頃、ローマでは205人の日本の殉教者の列福式が行われました。その後も太平洋戦争終結までキリストへの信仰を自由に生きることがはいくらか制約されていきました。

しかし、信仰の自由を得ている今、わたしたちは2015年に信徒発見150周年を迎えます。その年は、第二バチカン公会議閉会50周年にも当たります。

それで、この節目を契機に、長崎教区は今後どうあるべきかを教区全体で考えることは、大変意義深いことだと思えます。そのためにも、いまだ消化しきれしていない第二バチカン公会議の遺産を生かすようさらに努力すべきではないでしょうか。

そこで、各評議会と司祭評議会等に諮った上で、「信徒発見150周年」を契機として、本教区をキリストの意によりかなうものにするために「教区シノドス」、すなわち「教区共同体の全体の善益のため、教区司教を助けることを目的として選出された部分教会の司祭及びその他の信者の集会」(教会法 460条)を開催できればと考えています。これは教区全体の声を集め、知恵を結集して新たな方向づけを打ち出す重要な話し合いの場です。今年5月14日で、長崎教区が大司教区に昇格して50年になります。教区の教勢は縮小の一途を辿っていますが、規模においてはより大きく、特に質においては自覚を深める共同体でありたいと思えます。



## Q & A



### 「列福式後の

### 教区の方角について」

Q. 列福式が終つてすでに半年余りとなりました。いまもまだあの時の感動は残ってはいませんが、単なる感動だけではなく、これからの教区としての方向性など、冷静な対応も必要となるときに來ているのではないのでしょうか。

A. 列福式そのものの印象については、いまだ「あの時は」などの表現で、人々の口の上っているようです。しかし言われるとおり、これから冷静な対応が迫られているのだと思えます。

来月(七月)一日あの時福者に列せられた方々の最初の記念日が訪れます。「福者ペトロ岐部司祭と一八七殉教者」の記念日です。

この日(七月一日)を祝うことはもちろんですが、この日を出発点として、列福式一周年の十一月二十四日あたりに向けて、さまざまな企画を進めようという動きが、教会内外でちらほら聞かれるようになって

います。

それこそお祭り騒ぎになってはいけません。殉教の現代的意義をさらに掘り下げるものになるならば、二十八年前のヨハネ・パウロ二世の平和巡礼と重なって、その企画自体が、重みのある巡礼行となるにちがいません。

Q. 近ごろ「ながさき巡礼」ということばをよく聞くことがあります。これも列福式とかわりがあるのでしょうか。

A. このことばは、教会群の世界文化遺産化などの話を持ち上がり、「教会観光」ではなく、「巡礼」だということを強調するために、言われるようになったものです。

巡礼とは一言で言えば、心の旅ということになります。とにかく物見遊山的な、表面を通りすぎるだけのものにならないための工夫が必要です。

列福式とのかかわりは、殉教者ゆかりの地を訪れる人々が増えていること、そのゆかりの地の整備などが進んでいること、その旅を通して新たな出会いが生じていることなど、巡礼の推進に計り知れないほどの効果をもたらしたということでしょう。

ちなみに、カトリックセンターが一部ユースホステルとなつていたりということも、青年のみならず信徒・一般人の巡礼宿を目指すものであり、巡礼センターと連携して、

頭と心のみならず、巡礼という足による学びを指すものでもあります。

Q. 現代社会の特徴の一つとして忙しさがあ  
ると思います。そのために、物事を根源の  
ところから考えるいとまもなく、表面を通  
り過ぎるのに精一杯ということがあって、  
疲れてしまいます。教会生活もこういう風  
潮に流され、じつくりとした一貫性や継続  
性がなくなりつつあるように思うのですが、  
どうしたらよいのでしょうか。

A. おっしゃるとおりの問題に、この長崎教  
区もさらされており、これを克服しないか  
ぎり、つぎのステップ（一歩）はおそらく  
ないといえるでしょう。

そのためにはどうしたらよいのかという  
ことですが、つぎの二点が考えられるので  
はないでしょうか。

第一点は大司教様が第一面で述べておら  
れるように、一つの節目を作り、その節目  
に向かつて、みんなの歩調を合わせるとい  
うことです。

そうすれば、明確な目的地が見えてくる  
し、現在の活動の問題点や方向を、整理す  
るきっかけにすることができます。

第二点はワークシェアリング(役割分担)  
です。現代人が忙しいと言っている背景に  
は、さまざまな問題があり、一概に言えま  
せんが、どんな場合にせよ「分け合い」を

キーワード(鍵となることば)とすれば、  
道が開けてくるのではないのでしょうか。

現代社会に欠けているのはお金という人  
もいるかもしれませんが、それよりも「時  
間がない」というのが、共通の事柄のよう  
です。時間がないのではなく、細切れにさ  
れた時間ということではないのでしょうか。

そのすれちがう小さな時間を、布を折る  
ように紡ぎ合わせる技術こそ、いま開拓さ  
れる必要があると思います。

みんなが一堂に会することが困難であれ  
ば、すれ違う小さな時間と、その時間にて  
きる仕事を、中心となるコーディネーター  
(まとめ役)のもとにまとめていくのです。  
そんな時間拾いの技術こそ、いま求められ  
ているのではないのでしょうか。

Q. 新たなつなぎの技術は、難しいけれどな  
るほどと思います。さてこれから長崎教区  
の大きな共通の節目は何なのでしょう。

A. それは言うまでもなく、六年後の二〇一  
五年に訪れる信徒発見一五〇周年だと思  
います。

まだこの節目に向かう具体的な動きも意  
識も、芽生えていない段階ですが、列福式  
一周年を機会に、その一步を記す必要があ  
るのではないのでしょうか。

それも単なる行事の準備、というレベル  
に留まらず、福音化活動の全分野にわたっ

て、活動しつつ総括をするということが大  
事だと思えます。たとえば教区シノドス  
(代表者会議)を開き、教区のさまざまな  
分野の総括を行い、新たな出発を試みる  
という動きを作りだすことができれば、それ  
こそ一貫性と継続性のある教区の動きとな  
るにちがいません。

すでに40数年が経過したとはいえ「公会  
議」はいまだ抽象の域を出てはいないよう  
です。あらゆる教会活動に「ともに」とい  
う姿勢をつけ加えると公会議を理解するこ  
ととなると言えば、少しは具体化されるか  
もしれません。

しかし、それでもまだピンとこないで  
しょう。社会とともに、他の宗教とともに、  
キリスト者でない方々とともに、というよ  
うに具体化することもあるいはできます。

しかし、それでも小教区レベルではどう  
したらよいのか、どんな変化が求められて  
いるのか、まだまだピンときません。

小教区現場には、こんな古くて新しい問  
題があります。たとえば、子供の「けいこ」  
か、「塾」あるいは「クラブ」かなど。

この問題を解決しようとして、塾やクラ  
ブではなく、絶対に「けいこ」だ、殉教者  
を見做えなどと激をとばすことがあります。

しかし、本来は「ともに」なのです。神  
の愛の巨大なエネルギーの中で、両方を  
軽々とこなしていくのです。公会議および  
殉教者の精神に倣って。

新しい要理

「共に歩む旅」

(18)

第十六課 「愛と一致の三位一体」

【進行係】（参加者を歓迎して、十字架の印をしながら集いを始める）

「一人か二人の方が祈りで神さまをこの席に招いてくださいませんか。」  
（誰でも自由な祈りを捧げる）

A. 私たちの生活

私たちは一人で生きることはいけません。私たちは互いに分かち合い、助け合いながら信頼出来る家族や友だちを望んでいます。もつと進んで愛を分かち合い、互いを無条件に与え、受け入れる親密な共同体を切望しています。

人々が共同体を築くには、いろいろな姿があります。

【進行係】

「次の写真を見ましょう。」

【進行係】

（参加者たちに質問する）

①写真のように、人々が一緒に集まって共同体を築くとき、どんな点が良いかを互いに話し合ってみましょう。

②この人々はどのような調和と一致を築いていると思いますか。

B. 神のことは

神は一体ではありません。しかし、神は救いの歴史の中でご自



分を父と子と聖霊の三位として示されました。父と子と聖霊は愛の親しい交わりの中で一致しておられます。愛に満ち溢れた父であられる神は、世を創造され、その愛のために子であられるイエス・キリストを人としておつかわしになりました。聖霊は今、私たちの中に留まり、神のみ心を告げ導いておられます。

【進行係】

「どなたかマルコ1・9・11（イエスの洗礼）を読んでくださいませんか。」

「ほかの方がもう一度読んでくださいませんか。」  
・・・聖書を読む・・・

「聖書の本文で、心に響いた単語あるいは一節を選んで、一人ずつ順番に祈るような心で読んでくださいませんか」  
（同じ句を3回繰り返して読む間、他の人は沈黙を守ります。）

「2分間沈黙し、神が私たちに語られることばに耳を傾けましょう。」

【進行係】（参加者たちに質問する）

「あなたの心に響いたみことばは何でしたか。自分が選んだ単語あるいは節がなぜ心に響いたかをお互いに分かち合ってみましょう。」（分ち合う）

三位一体の神秘は愛のうちに一致をなすという神秘です。神の三つの位格である父、子、聖霊は愛によって一致し、唯一の神として存在します。



真理の霊が来られると、あなた方を導いて、真理をことごとく悟らせる。  
その方は、自分から語り、ではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなた方に告げるからである(ヨハネ 16・13)。

【参考聖書】

\*ヨハネ 1・1・18  
みことばが人となられる

\*ヨハネ 14・6・14  
道・真理・生命  
\*ヨハネ 14・23・26  
聖霊の約束

C. さらに一歩進んで  
旅をつづけよう

私たちは、愛の共同体を築こうと切望しています。この切望は三位一体の神から来ます。神はこの愛の交わりに私たちを呼んでおられます。

教会共同体は父、子、聖霊が互いに分かち合われる愛と一致、そして親しい交わりをこの世に現します。

【進行係】(参加者たちに質問する)

① 家族の中で愛を分かち合い、一致をなすために私たちはどんな努力が必要ですか。

② 他の人たちと一緒に働きながら一致をなすのに、障害になる要素は何ですか。  
どのようにすればその要素を克服することが出来ますか。

【進行係】

三位一体を現わす「栄唱」を唱え「十字架の印」をしながら、

この集いを終わります。

【進行係の心得】

\* 神の内的生命の躍動が迫力を帯びて伝わるようにつとめる。  
三位一体は他人事ではなく自分の中の神の生命活動である。「ちがって一つ」という神のみわざに挑戦するとき、三位一体の神の姿がこの世界に現れる。

【覚えましょう】

51. 三位一体とはなんですか。  
\* 父と子と聖霊の神がただ一人の方である事を意味します。  
キリスト教は一人の方である神を信じます。ただ一人の神が自らを世の中にあらわすのは父、子、聖霊という三位を通してです。

三位一体とは、愛そのものである神が私たちにあらわれることであり、親密な愛で結ばれていることを現わします。

52. 神が三位一体であることを人間は悟ることが出来ますか。  
\* 神が三位一体であることは、人間の知恵を越える真理です

から、これを悟ることはできません。神の啓示されたものだから、人間はこれを信じるのです。

53. 三位一体の信仰は、典礼ではどう表現されますか。  
\* 三位一体の信仰は、典礼では次のように表現されます。

① 洗礼

「私は父と子と聖霊のみ名によつてあなたに洗礼を授けます。」

② 十字架のしるし  
「父と子と聖霊のみ名によつて。アーメン。」

③ ミサの初め  
「主イエズス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」

④ 栄唱

「栄光は父と子と聖霊に。始めのように今もいつも世々に。アーメン。」

⑤ 使徒信条  
三位である神に対して信仰を告白する内容です。三位に光栄を捧げる祈りをするときには神を賛美するため深く礼をします。

永井隆博士と

## 「神の摂理」の問題

長崎大司教区司祭  
山内 清海

### 第2 「神の摂理」とは

それでは、そもそも「摂理」とは何でしょうか。永井の著書を一冊でも読まれた方は恐らく、「必ず」と言っているほど、「摂理」という言葉に出会われたことでしょう。それほど

「摂理」は、永井の「思想」と「生き方」に深く関わっています。ただ永井は、医学者、科学者でこそあれ、哲学や神学の専門家ではありませんでしたから、「摂理」についての専門的な定義や解説ぬきで、「摂理」という言葉を多用していますから、その意味は、読む人々の多義的な理解によって解釈され、それが永井の「摂理論」についての誤解が生る原因となっていると考えられます。だからわたしたちは、永井が、「摂理」という言葉をどのような意味に理解し、使用していたか、という点に焦点を当てて、考察しなければなりません。

その前に、まずわたしは、日本人が「摂理」をどのように理解しているかを知ることでも無駄ではないばかりか、むしろ永井批判の根拠の一端を知るために有益だと考えました。

岩波書店の『広辞苑』には、「摂理」について、①「すべおさめること」、②「代わって処理すること」、③「キリスト教その他の宗教で、神または精霊が人の利益を慮って世のことすべてを導き治めること」と、以上、三つの定義が記されています。日本人の「摂理観」は、おおむね右の三

つの意味にまとめられる、と言えるでしょう。しかし以上挙げました三つの解釈は、キリスト教的「摂理」を理解するためには不十分であり、不適確です。

では、カトリック教会は、「摂理」を、どのように理解しているのでしょうか。「摂理」についての詳細な説明は、紙面上の限界から、本冊子の目的にも適合しませんから、ただカトリック教会の、最新の、しかも公的な教えが集約されている『カトリック教会のカテキズム』（カトリック中央協議会訳、以下『カテキズム』とする）の記述を注解する形で、解説するにとどめましょう。ご存知のようにこの『カテキズム』は、現教皇ベネディクト16世が、教皇に選出される前に、ヴァチカンで世界神学会会長として活躍しておられた時代に編集開始し、かれによって終了されたものです。ところでこの『カテキズム』には、「摂理」について次のように、明確に解説されています。

「被造界は固有の善と価値を備えています。創造主からまいったく完成されたものとして造られたものではありませぬ。神が定めた、これらの到達しなければならぬ究極の完成に『向かう途上』にあるものとして造られました。神がご自分の被造物をこの完成に向かって導かれるはからいのことを、摂理と呼びます」

(302番)

右の『カテキズム』の定義は明白です。ただ「摂理」についてより深く理解するために、わたしたちは、①神はすべての被造物の創造主であり、統治者であること、②神によって創造され、統治されている全被造物は、固有の「善」と「価値」、そして「目的」を有していること、③しかしこれらの被造物は、けっして完全無欠な善としては創造されるおらず、かえって神の見えざる計画によって「完成途上」にある、という三点に注目しておかなければなりません。しかしこのような解説から、実はいろいろの問題が提示されます。その中でも特に重要な点は、神が万物の創造主であり、統治者であるならば、この世に、なぜこれほど多くの悪が存在するのか、つまり「神

の摂理」と「悪の存在」は調和する  
のか、という問題です。

### 第3 悪とは何か

「神の摂理」と「悪の存在」について  
の問題を解決するために、わたし  
たちは、大変な難問ですが、どうし  
てもまず、「悪とは何か」について考  
察しなければなりません。伝統的哲  
学、およびカトリック神学によると、  
「悪」とは、わたしたちが容易に想  
像するような、ある種の「積極的な  
存在」ではありません。むしろ「悪」  
とは「本質的に求められるべき善の  
欠如」として理解されています。た  
とえばわたしの車は空を飛ぶことも、  
水上を走ることもできません。また  
わたしは、魚のように水中をすいす  
いと泳げませんし、猿のようにうま  
く木登りもできません。すなわち、  
わたしの車は、「空を飛ぶ」とか、「水  
上を走る」という能力に欠如してい  
ますし、わたし自身は、「魚のように  
泳ぎ」、「猿のように上手に木登りを  
する」という能力に欠如していま  
すから、そのかぎり、わたしはたし  
かにそのような能力、すなわち「善」

に欠如しています。しかし、「水上  
を走らない」、「空を飛ばない」とい  
う事実からだけで、このようなわた  
しの車を、誰も「ポンコツ車」とは  
呼びません。車は本質的に陸上を走  
るように作られていて、空を飛んだ  
り、水上を走ったりするために造ら  
れてはいないからです。「空を飛ん  
だり」、「水上を走ったり」すること  
は、映画「007」の世界ではとも  
かく、一般の車の本質的な条件とし  
ては求められてはいませんが、また  
そのようなことをだれも期待しても  
いないからです。

しかし逆に、わたしの車や船が、  
しばしばエンストして全く動かなく  
なり、期待していた役目を果たせな  
くなったら、わたしたちはその車や  
船を、「欠陥車」、ないし「欠陥船」  
として、修理したり、廃棄したりし  
ます。元来、本質的に求められてい  
る機能を果たせない船や車を、わた  
したちは「悪い車」、あるいは「悪い  
船」と呼びます。このような意味で、  
わたしたちは、「悪」を単なる「善の  
欠如」とは言わないで、「本質的に求  
められる善の欠如」と言うのです。  
同じ理論から、眼に何かの欠陥が

あって見えなくなったり、転んで骨  
折して歩けなくなったり、あるいは  
脳傷のために記憶力を失うとか、理  
解力に欠けるようになったとき、そ  
れはわたしたちにとって一種の「悪」  
だと言えます。

このように考えると、神以外のす  
べての被造物は決して完全無欠では  
なく、何らかの不完全な要素を備え  
ている、と言わざるをえません。完  
全無欠なる存在は、ただ「神」だけ  
です。換言すれば神以外のすべての  
被造物は、例外なく「不完全」であ  
り、その意味では「悪」です。哲学  
者ライプニッツ（1646—171  
6年）は、このような全被造物の欠  
陥を、「形而上的悪」と呼んでいます。  
つまり「形而上的悪」とは、そのも  
のが「神ではなく、被造物である」、  
という事実を表現しています。だか  
ら神以外のすべての被造物は、存在  
においても、その活動機能におい  
ても、必ず限界があります。だからよ  
く言われるように、「形あるものは  
いつか崩壊し」、「命あるものは、い  
つか死を迎える運命にある」のです。  
これこそ、ライプニッツのいわゆ  
る「形而上的悪」です。だからわた

したちは、このような「被造性」を、  
積極的存在とは言わないで、むしろ  
「本質的な善の欠如」と言うのです。  
だからわたしたちは、人間として  
誕生し、次第に成長し、肉体的、知  
的、道徳的に完成しながらも、いつ  
の間にか老化し、やがて死を迎えて  
この世から去って行くべき者です。  
これは、わたしたちが「神」でなく、  
まさに生の人間であること、すなわ  
ち被造物であることに由来すること  
です。



## 大司教談話室

⑧

神のことばに照らされて  
各自自身を見つめなおすとき



Q. 評議会組織がつくられて動き始めています。国レベルでは地方分権が叫ばれています。教区では地区評議会を中心とした、7つの地区の充実が鍵を握っていると思うのですが、大司教様のお考えをお聞かせください。

A. わたしの前任者島本大司教様は、「宣教する長崎教区」づくりを目指し、(1) 教区組織の見直し、(2) 財政改革、(3) 信仰教育の充実を重点実施項目として掲げました。教区組織見直しについては、「望まれる宣教体制のための組織について」をテーマとした司教研修会(3回)などを経て、2001年4月、「教区一九一」となつて福音宣教の使命を果たすための中枢機関となるべく、教区本部事務局を核として11委員会が設置され、新しい教区組織がスタートしました。教区本部事務局は、「教区全体の統治、特に司牧活動の指導、教区行政の遂行及び裁判権の

行使において、司教を助ける諸機関及び人びとによって構成され」(教会法469条)、司教総代理がその直接の責任者であり、事務局長は実務担当者です(教会法473条)。

この教区組織見直しの一環として、小教区見直しが2002年7月10日司祭評議会への大司教諮問をもって開始されました。8月17日に準備会議が開かれ、小教区組織に関するアンケートが実施されました。その結果、(1) 小教区の中核組織が、教区全体で一定していない、(2) 小教区を代表する信徒が、経済評議会会長、信徒使徒職評議会会長、信徒会会長などまちまち、

(3) 主任司祭中心型あるいは依存型の傾向が強く、活動する信徒は一部に限られている、(4) 教区と信徒や修道者との連絡や連携が十分でない、などが明らかになりました。そこで、2003年4月から小教区見直しプロジェクト会議が延べ10回重ねられ、次のような考えのもとに、2005年4月各小教区に評議会が設立されました。(1) 小教区、地区、教区の各レベルに同じ名称で同じ内容の組織を作り、組織を一体化する。(2) 教会法が定める司牧評議会(教会法

第536、第511、514)がそれである。ただし、「司牧」だけでなく「宣教」の意味も込めて、端的に「評議会」とする。(3) 「小教区評議会」は主任司祭の諮問機関であり、主宰するのは主任司祭である。しかし、評議員は小教区全体(経済評議会、各種委員会や団体、地区や

班など)を代表しているので、所属する信徒(また修道者)全員が、評議員を通して主任司祭の宣教・司牧活動を助け、各自の役割を果たしながら一致団結して、参加し、交わり、宣教する小教区共同体をつくり発展させる責任を果たす(教会法第536条第1項参照)。(4) 教区内のすべての小教区と地区に共通した組織であるから、縦と横の連携が円滑になる。(本誌16号と18号を参照)。

次いで2006年4月に発足した地区評議会と教区評議会は、それぞれ「地区内のすべての小教区」あるいは「教区内のすべての小教区並びに地区」が、「連携、一致、協力して地区(あるいは教区)全体の宣教・司牧活動を推進していくこと」を目的としています。前号で述べたように、教区は、小教区に分けられています。ですから、まず各小教区が充実することが重要です。小教区が充実すれば地区も充実し、地区が充実すれば教区が充実します。小教区レベルでなしえないことも地区レベルで知恵と力をあわせ、地区の地域性や独自性を出しながら、心をつなげた活発な共同体をつくることは教区全体の活性化と発展に欠かせません。結局、すべての評議会は、教区本部事務局と各地区長を通して教区の要である大司教と一致し、「参加し、交わり、宣教する教区共同体」を推進しているのです。

(高見三明)





## 「オリオン座で輝く 三人の福音者」

冬の星座をじっくり眺めたことがありますか。今年二月、島原に旅をした折、晴天で澄み切った夜、久しぶりに高い空を仰ぎ、宇宙に輝く星々に見とれてしまいました。赤っぽく光る一等星のベテルギウスを一角とする星座が有名な「オリオン座」で、少し変形した長方形です。その長方形の中心に右上がり斜めに行儀よく並んだ小さな三つの星「三つ星」があります。同じような大きさの小さな星が仲良く三つ並んでいるのですぐに見つかります。この「三つ星」が今日の話の主役です。

二年半ほどかけて「ペトロ岐部と187殉教者」の各殉教地、記念像、記念碑、顕彰碑、ゆかりの地などを全国に巡礼した私の最後の地は島原の海でした。列福式までにすべてを巡りたいという目標がありましたので、島原の海に向かったのは真夏の8月1日でした。三人の「島原の殉教者」が冬の冷たい海に沈められて殉教したことを知りながら、真夏に訪ねたことの愚かさを反省した私は今年2月21日、「島原の殉教者」の殉教382年目の命日に島原へ巡礼したのでした。

1627年、島原の領主松倉重政の命によって、16人が島原城の濠端で「キリシタンは人間ではない、家畜と同じだ。措は二本あればよい」と、両手の中指三本を切り取られます。さらに島原の海に連行されて首に石を付けられ、厳冬の海に沈められたのでした。このうちの三人が内堀作右衛門の息子たちイグナチオ（5歳）、アントニオ（18歳）、バルタザル（年齢不詳）で、昨年11月24日、列福されました。

2月21日はよく晴れた温かい日和で、夜は澄み切った空に満天の星が輝き城下町を静かに照らしていました。静寂の中でひとり天を仰いでいると星々は輝きを増して彼らが沈められた海を祝福するかのようです。なおも見つめていると、オリオン座の中心に仲良く三つ並んだ「三つ星」が、福音者のイグナチオ、アントニオ、バルタザルと重なって見えてくるのでした。私にとっては大いなる「しるし」です。彼らをしのぶ縁（よすが）となりました。冬の星座のオリオン座

の三つ星とめぐり会い、そこに冬の殉教者の三人の福音と出会ったことは思いも寄らないお恵みでした。腰痛の痛みを押して、三人の殉教者と出会うために島原の冬の海を訪ねたのですが、海どころか天にまでも彼らを発見したことは望外の喜びでした。

実はこの日、別のお恵みにもあずかりました。島原港からタクシーに乗り、霊丘公園前の海へ行って島原教会までと伝えたのですが、歴史に詳しいドライバーさんはいくつかの歴史の跡を回って、最後はとうとう江東寺の島原の領主松倉重政の墓に私を案内したのです。

あまりの残酷さにヨーロッパにも伝えられた雲仙地獄での拷問を発案し実行したのが松倉です。島原、雲仙の殉教者を迫害した張本人、島原の乱も松倉親子の二代にわたる重税と悪政によるものだということですから、そういう人の墓など行かなくてもいいのにと内心つぶやいていたのですが、不思議とそこに導かれたのでした。彼は1630年、小浜温泉で非業の死を遂げたのですが、哀れむ心は起きません。

もちろん墓で祈ることはありませんでした。

ところがその夜、真っ暗闇の大きな天に光り輝くオリオン座の三つ星を見つめているうちに、なぜか昼に巡った松倉のことがしのばれたのです。人間の弱さ、ごう慢、自分の地位を守ろうと必死に生きる生身の人間が見えてきて、そのうちに島原の三人の福音は自分たちを迫害した松倉をきっと許しているに違いないという思いに至りました。人は互いに弱さの中で生きているのですから、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」（マタイ5・44）と仰せになるイエスさまに倣わなくてはなりません。迫害者のためにも祈るのがキリスト者なのだという事に、その夜、初めて気づいたのでした。

列福式後も、こうしてお恵みの中で生かされています。

福岡教区高宮教会  
青木 喜代子



2009年度

## 長崎教区評議会総会



### I 開会

ゴールデンウィーク期間中の5月3日(日)午前10時よりカトリックセンター・ホールで、2009年度総会が開催された。

総合司会の教区事務局次長、中浜神父様の開会宣言に引き続き、長崎教区評議会会長の大司教様から挨拶がなされた。要旨は次のとおり

- (1) 評議会及び役員会の皆様方に対して大型連休にも拘らず、教会のために日頃ご奉仕や色々な犠牲をされ、お忙しい中、総会に参加いただき心からの感謝の意と、併せて、この総会が実りの多い会になることを希望します。
- (2) 評議会とは何ですか、まだ良く分からない、との声が聞こえて来ますが、評議会とは信徒使徒職評議会が発展的解消し、司祭、修道士、信徒が同じ評議会の土俵で宣教に向い、拡大・充実した組織として2006年からスタートしました。

- (3) 小教区の組織とはどんなものか、例えばこの小教区に行っても自分たちの小教区と変わらない組織で活動している、そういう小教区を目指したい。また、小教区評議会は小教区全体を代表する組織でなければならぬ、小教区を良くする事は、地区が良くなり、地区が良くなれば、教区全体が良くなる、例えて言えば、ピラミッドみたいなものになればいいと思う。

- (4) 今日は特に教区が大司教区になって50周年の記念ミサ(記念日は14日ですが)を総会の後、午後3時から浦上教会で行います。大司教区になった意味をよく考え、単に記念として終りにしないで、それなりに、具体的な考え方を皆さんでして頂ければ良いと思います。

### II 議事

司会に平戸地区議長の川上武夫氏を選出し、議長の大山喜左エ門氏の会務報告に始まり、決算・監査報告等が提出され全会一致で承認された。

また、2009年度は教区評議会役員改選の年に当たり、司会より長崎教区評議会役員名簿(案)が提案され、この案も全会一致で承認された。その後、新議長より新任のご挨拶がなされ、引き続き、新議長より2009年度活動方針・計画、主催行事・連携行事及び新会計より予算(案)が提出され全会一致で承認された。

#### 新議長挨拶骨子

2009年度の活動方針・計画である



教区評議会事務局長の小瀬良神父様の「評議会の役割と評議員の使命」というテーマで導入講話がなされた

### III 評議会の役割と評議員の使命

評議会の役割と評議員の使命は言うまでもなく、小教区の宣教のために奉仕することです。

でも、実際には役員になる方々が少ないということや、時に司祭や、信徒の方々からの理解と協力が得られないという悩みも多いと思います。し

1. 神の言葉に親しむ
  2. パウロ年の継続
  3. 参加し、交わり、宣教する教会を目指して活動する
- この3項目を少しでも達成出来るよう、各小教区評議会の皆様方のご協力をいただき、努力して行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### 評議員紹介

各地区議長から新評議員の紹介と教区議長から教区新役員の紹介がなされた。

また、各地区評議員と教区役員の写真を撮り、高見大司教様にお渡しして、評議員のためにお祈りして下さいますよう、お願いした。

かし、神様から愛されているという事を信仰の目で見つめながら、頑張つて参りましょう。もし、種々の問題がありましたら教区本部も積極的に共に考え、解決に当って参りたいと思いますので、皆さんよろしくお願い致します。

#### IV 分かち合い・パネルディスカッション



午後からは7地区（長崎北、長崎中、長崎南、佐世保、平戸、上五島、下五島）のグループに分かれて（分団全次の（1）～（3）のテーマについて意見交換が行われ、その後、7地区の代表によるパネルディスカッションが小瀬良事務局長の司会で発表がなされた。

- (1) 評議会の役割と振り返り  
小教区ならびに地区評議会の現状の問題点は何か、何処に問題点はあるか  
①小教区の中で役員になる人がなかなかいない、若手のなる人が少ない  
②閉鎖的で教会に来る人が少ない  
③役員が高令化している

(2) パウロ年に学ぶ  
評議員として種々の問題ならびに困難さはある

が、どのようにして乗り越えたらよいか  
①パウロ年と言う事で昨年から1年間やってきたが、パウロが宣教した意味合いをもっと掘り下げながら、宣教活動して行く。

(3) 宣教への今後の取り組みについて  
2015年信徒発見に向かって、自分の近くにおられる信徒を発見していくにはどんな方法がいいだろうか

①教会での催しごと（例：ソフトボール等）を通じて、仲間を集め、教会奉仕の協力をお願いする

②教会のミサに参加しても、すぐに帰ってしまう人が多いので、教会にもっと関心を持つよう努力すべきだ

等々活発な発表会であった。また、高見大司教様から、「役員として女性にも能力のある人、出来る



人がいるのではないか」とのお話しを受けて、評議員に質問したところ、婦人会長で副議長をしている所は除いて、評議会役員として女性が副議長をされている小教区が13、14人程いたが、残念ながら議長は1人も居なかった。更に、「任

期の問題にしても制限はあるが、どうしても後任が決まらない場合は、例外として認めても仕方がないと思うし、一旦辞めて、再度復帰することも考えられる。信者さん達の意識として、自分たちの教会を自分たちが広めていく下地を作るとか、教会にもっと関心を持つよう家庭とか、職場とかで考えてみてはどうだろうか」などのご意見を頂いた。

#### V 閉会

総合司会より2009年度の教区総会を終了の宣言が有り、これからの一年への具体的な取り組みを胸に散会したのち、浦上教会へ移動した。

#### VI 大司教区昇格50周年記念ミサ

大司教区昇格50周年記念ミサが浦上教会で高見大司教様の司式により、各地区の地区長及び司祭参加のもと、多数の小教区信徒・修道者が集まり盛大に執り行われた。

なお、ミサ中に司教総代理の小島栄神父様が50年前の大司教区昇格公式勅書の日本語訳を朗読された。また、派遣祝福の前に、新評議会議長 松尾勝より高見大司教様に教区信徒を代表して大司教区昇格50周年記念のあいさつを述べた。

評議会議長 松尾 勝

# 生活教会 の中の



冷水教会

フォトプラン 山本 富夫

## 冷水

奈摩湾に臨む冷水の地に立つ教会堂。歴史を重ねた麗姿はその信仰を彷彿とさせる。

信仰の復活は他と同じく幕末期。しかし、明治になって迫害があったという。

一八九九年、大崎八重師が青砂ヶ浦に着任、翌年、小教区となった。

一九〇七年、師は冷水に御堂を建立。クザン司教が祝別し、巡回教会となった。その後、昭和、平成と増築や改修を重ね、早や百年を越えた。

鉄川与助第一作の教会堂は、今も人々の祈りと想いを刻み込み、凜としている。